



題字 井口 文章  
再刊 第245号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2017

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面：文化プログラム取材第二弾  
短期留学生の皆さん、日本へようこそ！  
二面：みやぎ総文特集③  
七ヶ浜町へ  
現地の人に聞く、復興に向けての想い

# 五輪へ向けた「文化混流」

## 東京五輪文化プログラム取材第2弾

9月9日(土)と10日(日)に八王子市で東京キヤラバン in 八王子が開催された。東京キヤラバンは3年後の東京五輪へ向けた文化庁主催の文化プログラム(注)を先導する企画として、劇作家の野田秀樹さんが平成27年に開始した。今回も編集部4名が共同通信社の記者と共に参加した。(編集室共同取材)

東京キヤラバン in 八王子とは異なる地域・文化の交流、「文化混流」をテーマとして、時間にとらわれない自由な交流が、オーガニスムを鑑賞、参加者が



琉球舞踊「カチャーシー」のレクチャーを受け思い思いに踊る来場者



「こんな楽しいイベントが開かれて良かった」と井上さん

2020年への期待  
流れる音楽に合わせてリズムカルに踊っていた井上みうさんと息子の友洋さんに話を聞いた。みうさんのダンスの師匠が近藤良平さんで高校生の

向々に開かれた。五輪の準備がすすむにつれて、東京五輪の文化プログラムも第1回目を迎えている。文化庁が主催する「文化混流」は、2020年東京五輪を契機として、異なる地域・文化の交流を促進することを目的としている。今回は、東京キヤラバン in 八王子という形で、文化庁主催の文化プログラム(注)を先導する企画として、劇作家の野田秀樹さんが平成27年に開始した。今回も編集部4名が共同通信社の記者と共に参加した。(編集室共同取材)

自由にも踊り、楽しめる  
「バラバラ」の振り付けを担当した広崎うららさんは「主催者の近藤さんと仕事仲間として長い付き合いで、呼ばれて出ることにになりました」と話す。普段から様々な

「音楽や踊りで文化交流を」と野田さん(右)と近藤さん(左)  
近藤さんは「様々な場所や時間で、文化同士が出会うチャンスを作りたい」と熱く語る。2人は「色々な人がそれぞれでできていることをつなげ、2020年に向けて文化的に盛り上げていきたい。そしてそれで終わらせずもつと先を見据えていきたい」と話している。

「ダンスの楽しさを伝えたい」と広崎さん  
今回、主催者・参加者問わずこのイベントを楽しんでいる様子がとても印象的だった。取材した委員は「最初は伝統的な踊りと、近代的な踊りは絶対に合わないと思っていました。でも実際に見てみると、どれも意外と合っていてとても驚いた」と話す。

力強く太鼓を打ち鳴らす小平七小和太鼓クラブ  
9月23日(土)、ルネこだいのメドレーだ。ヨドバシカメラで優秀賞を受賞したというラヤチヨコボール、ワークマウ「龍星群」。6つのパートにわたるCMソングで観客は分かれた28人の音色が綺麗に響き渡り、ビックカメラに重なり合い、美しい旋律が会場に響き渡った。

6中の箏の演奏が印象に残っていると小平七小吹奏楽部の2人  
小平六中吹奏楽部が演奏した。コンサート後、小平七小の和太鼓クラブで演奏した小学校6年生の娘を持つ杉山洋子さんに話を聞くと、去年来たときに素晴らしいと感じたという。「錦城の演奏は、目をつぶるとまるで大人が演奏しているように感じます」と語った。

むらさき草  
今年夏休み、家族旅行で訪れた長崎の軍艦島ツアー。東京ドーム5個分の面積に廃墟と化した高層建築がひしめく姿が軍艦島「土佐」に似ていること有名だ。2年前に「明治日本の産業遺産」の一つとして世界遺産に登録されたこともあり、どんな風景が見られるかと楽しみにしていたが、その日は高潮で陸は叶わなかった。代わりに隣の高島にある高島石炭資料館に立ち寄り、軍艦島の模型近くで、ツアーガイドである元島民の坂本道徳さんは話した。「外観ばかりが取り上げられるけど、この島がなぜ無人となったのかをきちんと理解してほしい。本当は興味本位でカメラを向けなくていい」



書道の体験をしたフォレストレイク生

オーストラリアから錦城へ日本の学校体験  
9月23日(土)と25日(月)の3日間、錦城にオーストラリアのフォレストレイク高校から15名がホームステイ、学校体験に来た。生徒は23、24日をホストファミリーと過ごし、25日には、書道やOC、柔道などの授業に参加した。食堂で錦城生としゃべりながら昼食をとっていた4人に取材をした。



「錦城生ははじめ」と語るティナさんとシャーロットさん

「このイベントの意義は、みんなが楽しんでほしい」と話す。部長の川崎風さん(3年)に感想を聞くと、「初めての県外での発表で緊張しましたが、良い機会になってよかったです」と安んじられた表情を見せる。伝統芸術の魅力は「見ているお客さんもお客さんが喜んでくれるとやりがいを感じます」と小川さん。

恒例の交通安全運動  
9月27日(水)の朝、女子バレーボール部員が錦城高校南交差点で、毎年春と秋恒例の交通安全運動を小平警察署や地域交通安全活動推進委員と共にやった。運動では、交通安全についての紙が入っているティッシュを配ったり、歩行者を誘導したりしていた。



旗を用いて歩行者を誘導する女子バレーボール部

地域交通安全活動推進委員会副会長の金子未夫さんと、同じく委員の五十嵐良夫さんに話を聞くと「この運動の目的は、自転車マナーの定着と、反射板を自転車につけてもらうこと。自転車関連の事故が減るよう呼び掛けていきたい」と話した。(蘭)

旗を用いて歩行者を誘導する女子バレーボール部  
9月27日(水)の朝、女子バレーボール部員が錦城高校南交差点で、毎年春と秋恒例の交通安全運動を小平警察署や地域交通安全活動推進委員と共にやった。運動では、交通安全についての紙が入っているティッシュを配ったり、歩行者を誘導したりしていた。

旗を用いて歩行者を誘導する女子バレーボール部  
9月27日(水)の朝、女子バレーボール部員が錦城高校南交差点で、毎年春と秋恒例の交通安全運動を小平警察署や地域交通安全活動推進委員と共にやった。運動では、交通安全についての紙が入っているティッシュを配ったり、歩行者を誘導したりしていた。

旗を用いて歩行者を誘導する女子バレーボール部  
9月27日(水)の朝、女子バレーボール部員が錦城高校南交差点で、毎年春と秋恒例の交通安全運動を小平警察署や地域交通安全活動推進委員と共にやった。運動では、交通安全についての紙が入っているティッシュを配ったり、歩行者を誘導したりしていた。